

令和５年度茨城県立笠間高等学校自己評価表

目指す学校像	○あいさつや礼儀を尊び、誠実な人間を育てる学校 ○常に勤勉な態度を養い、職業人として必要な学力を育てる学校 ○自主自律の精神を育み、一人一人の進路希望を実現する学校 ○普通科、美術科・メディア芸術科が切磋琢磨し、教育の質を高められる学校	
三つの方針		具体的目標
三つの方針 (スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 「卒業までにこのような生徒を育てます」 ◇何事にも誠実に向き合い、挨拶や礼儀を尊び、職業人としての必要な力を有する人 ◇これからの社会を自律した大人として、楽しく力強く自分らしく生きていける人 ◇地域に誇りと愛情を持ち、社会を動かして高めていく行動ができる人
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 「このようなことを学びます」 ◇共通： 3つの学科の高校として、多様な価値観を持つ生徒が学び合い切磋琢磨し合いながら、社会性・人間性を育てます。 ◇普通科： 体験活動や地域交流を通し、自ら課題を発見し、それを主体的に解決を図ろうとする力を養います。 多様な目標の実現に向けて、インターンシップや検定への積極的チャレンジなどで社会で発揮できる力の基礎を高めます。 ◇美術科： 絵画、デザイン、陶芸の分野を専攻として、それぞれ専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。自分の理想を求めて、作品制作に打ち込める環境において他の生徒と刺激し合いながら、自分らしさを表現する力を養います。 ◇メディア芸術科： 映像、写真、CGの分野を専攻として、それぞれの専門家の教員からの実技指導を少人数編成授業で行います。表現力、創造力、豊かな感性を磨き、作品制作に打ち込める環境において他の生徒と刺激し合いながら、自分らしさを表現する力を養います。
	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 「このような生徒を求めます」 ◇自らの可能性に向かって自分としっかり向き合い、物事に真剣に取り組む生徒 ◇多様な価値観に触れることで視野を広げ、自分の特性についての理解を深めたい生徒 ◇美術科・メディア芸術科： 美術の専門性を高めたい人、将来美術・メディアの分野で仕事をしたい人、作品制作が好きな人、美術・メディアの分野で社会貢献したい人、美術系・メディア系の大学の進学を志望する人

今年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
【成果】 ・授業におけるアクティブ・ラーニングの定着が図られつつある。 ・進学希望者の 97%が進学を決定し、就職希望者の 98%が就職を決定した。 (全体の進路決定率 90.6%) ・国公立大学 2 名を含む 15 名が大学に合格した。そのため、国公立大学合格者が 15 年連続となった。 ・登校指導、SGE (構成的グループエンカウンター)、アサーショントレーニング等の支援の徹底により、落ち着いた学校生活が送れている。 ・「笠高キッズ」などの地域連携行事や笠間高周辺の清掃ボランティア活動等に参加する生徒が増えてきている。 【課題】 ・中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や、多様な支援を必要とする生徒に対する生徒理解や生徒支援の更なる充実が必要である。 ・進学希望者に対する、教育課程編成を含む進学指導体制の充実が必要である。 ・心の問題を抱える生徒が少なからずいるため、スクールカウンセラー等や外部機関の活用による教育相談等の更なる充実が必要である。 ・積極的に部活動への加入を勧めているが、部活動の定着率があまり高くない。	基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取組の充実と、特別な支援を必要とする生徒への支援体制の整備	①アクティブ・ラーニングを中心とした授業形態の工夫・改善を積極的に行うことにより、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。 ②生徒の興味関心を引き寄せる授業や ICT (電子黒板等) を活用した授業等、日々研鑽した授業を展開することにより、授業の楽しさを伝え、学習習慣の確立や学力の向上を図る。 ③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して、多様な支援を必要とする生徒への学習支援や適切な対応に努める。	A	A
	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	④生徒の「主体的な学び」を引き出す授業実践のために、相互授業参観や校内研修を実施する。	A	
		⑤各教科における生徒の授業満足度 75%以上	B	
	問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化	⑥個に応じたきめ細かな指導を行うとともに教育相談体制の充実を図る。また、学年間、教員間での統一した生徒指導を行うことにより、非行やいじめの未然防止を始め、SNS トラブルやスマホ利用をめぐる問題や課題にも迅速に対応する。	A	A
		⑦家庭、地域社会及び関係機関との連携強化を図るとともに、情報共有のもと協力して生徒指導を行う。	B	
	主体的な進路選択と、その実現のための具体的道筋を考え、行動する意識と態度の育成	⑧3 年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで、望ましい勤労観・職業観、進学や就職に対応できる力を育成する。	A	A
		⑨インターンシップや各種講話、「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組等を通して主体性を育み、進路実現のための意識と態度の育成を図る。	A	
		⑩学習段階に応じて生徒の資格取得を推進し、進路実現に向けた指導を行う。1 年に 1 資格、卒業までに 3 資格取得を目標とする。	B	
	心の教育の推進と特別活動の充実	⑪奉仕活動、異校種学校との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。	B	B
		⑫部活動や生徒会活動への主体的、積極的な参加を促し、生徒の活力を引き出すとともに、礼節や規律を重んずる態度を養うことで、豊かな人間性を育む。	B	
	美術科・メディア芸術科の教育活動の充実	⑬質の高い指導と様々な体験活動を通して、美術や映像メディアに関する技量を伸ばし、美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。	A	A
		⑭「チャレンジ・プロジェクト」に係る取組を通して、美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。	A	
		⑮美術科・メディア芸術科に関する教育活動の積極的な広報活動を行う。	B	
	地域からの期待と信頼に応えるための積極的な教育活動	⑯様々なメディアを通して、学習指導や生徒指導における実践と成果、生徒の課外活動の様子など、本校の教育活動についての情報発信に努める。	B	B
		⑰特色ある学科を有する笠間高校の様子や未来像を、様々な機会をとらえて地域社会に発信することで、魅力ある学校づくりに資する。	B	
	働き方改革の推進	⑱業務改善と校務の効率化を図り、教育環境の整備と働きやすい職場環境づくりを行う。	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	授業規律と学ぶ姿勢の確立	・始業前に授業を受けるための基本的な準備を習慣づけさせる。②③	A	A	・授業前にノートやワーク等の準備を、生徒自らが率先して実行することができた。 ・評価に関する事柄では情報交換をより密にし、複数の国語科教員で確認を実施する。 ・ICTの活用では授業に活かすための細かな注意点を教科内で共有する。 ・漢字検定では受検者並びに合格者を増やすための工夫・改善が必要である。
		意欲的に参加できる授業環境の構築	・考えたことを発言したり、ノートに記録したり、作品世界を意欲的にとらえたりすることができるよう、授業形態を工夫・改善する。①②③④⑧⑩	A	A	
		多面的かつ総合的な評価の確立	・評価に関する情報交換を密に行うことで評価の平等性の確保に努め、客観的に妥当な評価方法を開発する。①②③④	B	B	
		I C T活用を活用した授業	・今までの経験を持ち寄ったり授業を参観して活用方法を学んだりすることで、I C T活用のタイミングを学び教材研究の一環として積極的に導入する。①②	B	B	
		進路実現を視野に入れた国語指導の充実	・漢字検定合格を目指しながら、語彙力を身につけ、進路に生かす。⑩	B	B	
	・作文や小論文指導を通して、ニーズに合った文を書けるようにする。①⑧		A			
	・自らの創作意欲を発揮するために、短歌や俳句などの短文公募に投稿し、結果に応じて適切に評価をする①		B			
	地歴公民	基礎的・基本的な学習内容の定着	・高校での学習内容の基礎となる義務教育段階の学習内容を定着させるため、小単元・学習内容に応じてスモールステップに基づく基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。①②	A	A	・ワークシートやホワイトボード、タブレットを使用し生徒が主体的に学習に取り組む授業展開に資することができた。 ・次年度は主権者教育等を通して公民的資質を育成するとともに各種検定への広報をもっと積極的に行い、取得に向けての支援をしていきたい。
			・授業と連動させながら歴史検定など各種検定取得に向けた積極的なアプローチを行う。①②⑩			
		学力向上のための指導方法の改善	・アクティブ・ラーニングやICTを適宜採り入れながら、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む指導方法の展開に資する。①②④	A		
	公民的資質の育成	・成年年齢18歳への法改正を踏まえ、主権者教育・金融教育・租税教育・法教育などを通じて公民的資質を育成するとともに、社会的に有為な人物としての職業観・勤労観を育む。⑧⑨⑪	B	B		
	数学	基礎学力の定着	・少人数編成授業を活用し、机間指導を充実させ、個々の生徒が達成感を味わえる授業を展開する。②④	A	A	
			・アクティブ・ラーニングやI C T機器を利用した授業を通して、一人一人が主体的に授業に参加できる授業を展開する。①②	B		
		進路実現に向けた指導	・入試問題や模擬試験の過去問など、発展的内容を取り入れながら進学課外を行い、進路実現の一助とする。⑧	A	B	
	・数学検定の実施と、それに対応した課外を充実させる。⑩		B			
	理科	自然現象への興味・関心を高める指導法の工夫・改善	・実験・観察など体験的な活動やI C T機器の活用などを通して、科学的思考を養う。①②	B	B	・観察などの活動やICT機器の利用を通して、思考力を養いたい。 ・発展的な内容が生徒の実態に合わず、取り入れにくいとため、工夫が必要である。
		基礎学力の定着	・授業改善等の工夫により生徒の学習意欲を向上させ、基本的な内容の確実な定着を図る。①④	A	A	
		生徒の実態に応じた指導の展開	・発展的な内容を取り入れ、上級学校への進学を目指す生徒に対応する。②	B		
			・教科書準拠の問題集や小テスト等を活用する。また、必要に応じて補習を行うことで、生徒一人一人に対応する。②③	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題	
教科	保健体育	授業内容の充実と工夫・改善による運動・スポーツ・健康・安全に対する興味関心を高める。	・体育授業においては、選択授業を導入し、主体的に学習できるようにする。そのためにアクティブ・ラーニング、ＩＣＴ機器を活用し、生徒が興味関心を持って積極的に学習できるようにする。また、生涯を通じて運動・スポーツに関われるよう３年間を見通した授業を展開する。①④	B	B	・男女共修・選択制授業を教育課程上実践できない学年もあるが、時間割などを工夫しできるだけ実施していきたい。 ・新学習指導要領に基づいた観点別評価を実践し指導と評価の一体化をはかり、より意欲的に授業に取り組むことができるようにする。	
			・保健授業においては健康や安全に関する課題や問題をより身近に感じ、生涯を通じて健康安全について考えられるよう、ＩＣＴ機器や専門的な情報などを伝えるように指導を工夫していく。①	B			
		体力・運動能力の向上	・体育実技では、運動量の確保のために準備運動の工夫や、種目の特性による個人及び集団スポーツの実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながる授業を実践する。①	B			B
		指導と評価の一体化	・指導と評価の一体化のため教科会を積極的に実施し、授業の安全な実施に配慮するとともに、評価の観点を明確にして目的意識を持たせながら意欲的に取り組ませる。授業の振り返りも兼ねてワークシートも活用する。①	B			B
	芸術音楽	授業内容の充実と工夫・改善	・生徒が主体的に授業に参加できるよう、実態に即した教材の選択・精選を行う。①②	A	B	・授業満足度がもう少し数値を上げられるように、知識技能、そして思考する力、クリエイティブな力などを伸ばせるよう、教材研究に励みたい。	
			・言語活動の充実を図り、表現の工夫や感じ取ったことを思考・判断し、表現する力を高める。①②	B			
		指導に生かす評価の工夫	・評価の観点を明確にすることで関心・意欲を高め、目的意識をもたせながら学習に取り組ませる。①④	A	A		
			・授業や実技発表での課題や反省を評価カード等に記入させ、指導に生かす。①②	B			
	芸術美術	授業の内容充実と工夫・改善	・生徒の興味関心を引き寄せ、美術の楽しさを伝える授業を実践する。①②	A	B	・作品展示や鑑賞会の機会を増やし、美術科・メディア芸術科との交流等を行うことで、鑑賞活動及び言語活動の充実を図る。	
			・授業作品の校内展示を行い、美術科・メディア芸術科と互いに作品を鑑賞し合うことで、より充実した制作活動に繋がるように指導する。②⑬	B			
		指導に生かす評価の工夫	・ICT、ワークシート等を活用し、制作の過程を記録、発表、相互鑑賞させることで、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。①④	A	A		
	英語	基礎学力の定着と応用力の育成	・少人数授業の展開により基礎的知識や基礎的コミュニケーション能力を定着させるとともに、課外授業を通して上級学校進学に対応できる学力を身に付けさせる。①③	B	B	・１年でタブレットを使い始める時期に毎回使用することで、電子版の辞書も含め、活用を促進し定着させたい。 ・単語帳のレベルをコース別にするなど、上級学校を目指す生徒の力を養う。 ・課外受講者や英語検定受験者を増やす取り組みを行い、積極的な参加を促したい。	
			・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、ICTを使用して単語を調べる習慣をつけさせたり、単語演習やワークブックなどの課題に取り組ませたりする。③	A			
		指導内容の充実と工夫・改善	・ICTを活用しながら、補助教材やワークシート等を工夫し、個々の生徒の実態に応じた指導と支援に努める。①②③④	A	A		
			・生徒全員が主体的に授業に参加できるよう、コミュニケーション活動などの表現活動を積極的に授業に取り入れるとともに、観点別評価方法の工夫・改善を図る。①②	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	家庭	生徒の実態に応じた指導法の工夫	・ICT活用、補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実を図り、学ぶ内容のイメージが伝わりやすい授業を心掛け、興味関心を高め、生徒の主体的な取り組みを促す。①②③④	A	A	・調理実習のみならず、被服実習等においても、様々な感染症への対策を引き続き継続する。 ・タブレットを活用し授業を活性化する。 ・観点別評価の評価方法の工夫。
			・コロナ禍におけるアクティブ・ラーニングなどの指導法の工夫・改善を積極的に行うことで、生徒の思考力の伸長を図り、実生活で活用できる力を育てる。①②③	A		
			・18歳成人の法改正を踏まえ、日常生活の中で実践できる能力を育み、自ら考え行動する自立した消費者を育成するための消費者教育を行う。	A		
		実験・実習の充実	・数多くの実験実習を取り入れ、T Tの授業を活用したきめ細やかな指導を通して生活力や技術力を高める。①②	B	B	
			・被服製作や調理実習を通して、創造的に製作する態度や「本当に使える力」を見据えた技術の習得を目指す。①	B		
	情報	情報化社会に対応できる基礎的な情報活用能力と知識を身に付ける	・検索エンジンを利用した情報収集や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの基本的なパソコンスキルを身に付けさせるとともに、新たに導入される学習者用端末の有効活用を推し進める。①②④	B	B	・学習用端末を使用した授業ができなかった。黒板とノートだけではなく、ICT機器をさらに活用していきたい。
			・身近な事例を取り入れ、著作権や個人情報の管理など、情報モラルの向上を図る。①	A		
		資格取得の奨励	・進路実現に向けた取り組みとして、ビジネス文書実務検定などの各種検定受験を奨励する。⑥⑩	B	B	
	商業	授業を分かりやすくするための工夫改善	・生徒の実態や能力に応じた学習支援や適切な対応に努める。①②③④	A	A	・検定試験に合格する力が充分ある生徒もいるが、受検者数が少なく、学校で実施できない回があった。資格取得への意欲の向上が次年度への課題である。
			・ICTを活用し、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。②③	A		
職場環境の変化に対応できる資質と能力の向上と資格取得の推進		・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①②	B	B		
		・各種検定試験に対応した授業内容を取り入れ、資格取得を推進する。⑥⑩	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	学力の向上と特別な支援を必要とする生徒への支援	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ思考力・判断力・表現力の伸張を目指しアクティブ・ラーニングやＩＣＴ機器を取り入れた授業が行えるよう環境整備に努める。①②③④⑤	B	B	・行事等の精選 ・指導と評価の一体化の実現 ・定期考査の見直し
		・特別な支援を要する生徒に個別的・組織的対応ができるよう関係者の連携を図る。①②③④⑤⑥	A		
		・資格取得を推進し、学習に目的意識をもたせることで学習習慣の確立を図る。①⑥⑧⑩	B		
	魅力ある学校づくりと積極的な情報発信	・ホームページ等の更新を学年・学科・部活動など多くの部署に促し、魅力ある学校づくり及び教育活動の情報発信し、受検生の確保に努める。⑭⑮⑯⑰	B	B	
・奉仕活動、異校種間交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援する。⑪⑯⑰		A			
生徒指導	基本的生活習慣の定着と規範意識の育成	・一人一人の生徒の特性を十分に理解して信頼関係を築き、生徒が自らの意志で学校や社会のきまりを守り、自己の言動や生活態度を律して、より好ましいものに高めようとする力を育み、安心して学校生活を送ることができる環境をつくる。⑥⑦	B	B	・生徒指導から生徒支援へ 教育相談部・生徒指導部特別支援部（仮称）に分業した指導の提案 ・社会の変化を考慮した校則等の見直しの継続 ・社会のマナーに関する指導方法の検討
		・保護者、学年内・外、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、その他関係機関との連携を密にし、情報共有をはかり、統一した組織的かつきめ細かな生活指導を行う。⑥⑦	B		
	事故・問題行動の未然防止と教育相談のいっそうの充実	・いじめに向かわない生徒を育成するとともに、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを正確に認知し、防止等のための研修や取り組みを行う。⑥⑦	B	B	
		・非行防止、交通安全、ネット安心安全利用教育等の講演会等を実施し、生徒の安全やスマホのマナーに対する意識を高めることで、事故・問題行動の未然防止を図る。⑥⑦	B		
		・教員が生徒面談に積極的に取組むとともに、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、外部機関等の活用によって、教育相談および特別な指導が必要な生徒への指導をより充実させる。⑥⑦	A		
進路指導	3年間を見通したキャリア教育の推進	・外部講師や進路ガイダンスを積極的に活用し、進路に対する意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を育成する。③⑧⑨	A	A	・進路行事や就職・進学指導など進路実現につなげるため学年と連携する。インターンシップの時期などアンケートの要望と本校の事情をすりあわせて改善していく。 ・求人票をDX化した効能の活用促進。 ・資格試験への取組を促すため、問題集の貸出制度などを充実、周知し推進する。 ・生徒・教員の進路室利用促進。
		・企業や上級学校の見学、インターンシップ等の実体験を通して、進路に対して具体的なイメージを持たせる。③⑧⑨	A		
	進路希望の実現	・生徒の進路選択の幅を広げるため、資格取得を推奨するとともに、基礎学力を定着させ、応用力を付けさせるための支援体制を強化する。⑩	B	B	
		・進路資料室を整備し、進路ハンドブックの内容を充実させ、進路実現に向けて、生徒が自主的かつ主体的に行動するよう促す。⑧	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
保健 厚生	生徒・職員の健康管理の充実および保健意識の高揚	・担任と連携し未受診の生徒を減らす。各種検診を通して自身の健康について理解を深め健康への意識を高めながら、健康管理能力が育成されるよう促す。⑥⑦	B	B	・健康や安全への意識をより高めるための行事や指導など、各部署や教科と連携し、実践していく。 ・委員会活動内容の充実と活発な運営。 ・生徒や職員が安全かつ健康に学校生活を送れるよう、引き続き安全確保や保健衛生、環境美化に努める。
		・担任と連携し健康や衛生の重要性を再確認させるとともに、「保健だより」等を通して、生徒・職員一人一人の保健意識を高め、感染症、疾病の予防に努める。⑥⑦	A		
	学校環境の美化と整備	・校舎内外の自主的な清掃作業の習慣化に努める。⑪	A	A	
		・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように、定期的に安全点検を実施し安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。⑪⑬			
	防災教育の推進と防災意識の高揚	・地域と連携した防災訓練を実施し、震災などの非常時に、迅速かつ適切な行動がとれるようにする。⑦	A	A	
		・防災避難訓練の実施内容、実施時期等について検討し、非常時に適切な行動がとれるようにするとともに、平時からの防災意識をより高める。⑦			
特別 活動	部活動の活性化	・顧問の適性や個性を活かし、生徒の積極的活動を促して部活動の活性化を図る。⑫	A	B	・運動部員の加入・活動の促進を促し、より活力のある学校生活を送れるよう進めたい。
		・部活動顧問会議などを通して、部活動の活性化と円滑な活動、及び適切な予算配分を進める。⑫	B		
	学校行事の生徒の自主的実践的参加	・生徒会を中心に、全校生徒が意識をもって行事の企画・運営ができるようにする。⑪⑫	A	A	
		・生徒の意見を積極的に取り入れ、学校行事の充実と活性化を図り、生徒の自主性を育む。⑪⑫	A		
	ホームルーム活動を通し生徒の自己形成を図る	・LHRの年間指導計画を工夫し、LHR活動の時間を確保し充実させる。⑪⑫	A	A	・現状を維持しつつ、新しい仕掛けも検討していきたい。
		・「キャリア・パスポート」を積極的に活用し、キャリア教育の充実を図る。⑫	B		
		・JRC部・生徒会を中心としたボランティア活動や、生徒の地域連携行事参加を進め、地域交流を図る。⑪⑫	A		
	渉外	PTA活動の活性化による学校教育の活性化	・保護者、教職員が協力しPTA活動を実施することにより、地域共々活性化を図る。⑯⑰	A	A
・学校行事や役員会などの機会を通し、学校や地域、生徒が抱える課題や現状を保護者に知らせ、保護者と教職員が協力体制をつくる。③⑯⑰			B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
図書	図書館の整備・充実	・蔵書の整備を再度行い。図書管理能力の強化に努める①⑱	B	B	・コロナ禍から落ち着きを取り戻し、朝の読書が再開したが、読書をしようとする意識は未だに低いため、読書意欲を向上させるための方策を考えるべきだ。 ・図書委員の活動を活性化させて、より利用しやすい図書館の環境を整えたい。 ・本年度は000番台から100番台の図書を揃えたが、いささか生徒の興味関心とかけ離れているようなので、選定委員会の複数回開催及び生徒図書委員会事前のヒアリングを設けるべきであった。
		・生徒の教養を高めるような本を、長期的展望から精査し購入する。①②⑰	A		
		・本の衛生上の観点から本の入れ替えを計画的に行う。⑱	A		
		・読書環境の整備をし、利用しやすい図書館づくりに努める。①②	B		
	図書委員会の活性化	・迅速な貸借や、簡易レファレンスができるような図書当番の能力育成に努める。①⑪⑫	B	B	
		・図書当番以外にも図書便りの発行、多くの生徒が訪れるような図書館の内装、蔵書点検など、自らの手で図書委員会を運営する自覚を持たせる。①⑧⑫⑯⑰	B		
	「朝の読書」の充実・管理	・「朝の読書」の意義を理解し、進んで活字文化を取り入れられる環境を整える。①②	B	B	
		・古くなった学級文庫の入れ替えを積極的に行う。①⑫	C		
事務	財務会計の適正な執行	・予算執行においては、各担当部署からの要望・内容を精査し、適正かつ計画的な予算執行を行う。特に、「『笠間輝き』プロジェクト」に係る予算においては、状況を見極めつつ、コロナ禍での活動に配慮しながら、担当者と連絡調整を適時行い、計画的な予算執行に努める。②③⑨⑭	A	A	・県の定期監査においては、指導等もなく適正な執行ができた。 ・予算執行が遅延しているものもあるため、より計画的な予算執行に努める。 ・学校内における安心、安全な教育活動を保持するため、計画的な施設設備の修繕等を心がける。
	施設設備の適切な維持管理	・茨城県財務規則並びに同解釈及び運用等の諸規則に則り、適切な判断により、適正かつ効率的な執行を行う。⑰⑱	A		
		温室効果ガスの排出抑制と省エネ対策	・各担当部署の要望に基づき、備品の更新等を計画的かつ適正に行い、教育環境の整備に努める。②⑨⑭⑰	B	
			・電気・ガス・水道量の記録管理を継続し、漏電漏水等の防止に努め、尚且つ省エネルギーの推進を行う。⑱	A	
			・グリーン購入法の推進により、環境にやさしい製品の購入に努める。⑰⑱	A	
美術科	教育活動の充実と楽しい授業づくり	・生徒が意欲的に取り組めるよう、授業内容や題材の工夫・改善を行う。①②④⑤	A	A	・地域連携行事や実技講習会、展覧会など、外部と連携した行事を多く実施することができ、充実した1年となった。また、進路にかかわる活動や他者と協働する活動の中で、計画性や主体性を育成することが今後の課題である。
		・教員間で、生徒の実態に応じた指導方法を検討し、連携を取りながら実技指導を行う。①②③④⑤⑯	A		
	進路指導体制の充実	・早い段階から進路へ向けて意識を持つよう指導し、学年・学科を越えて情報交換を行うことで一貫した進路指導を行い、主体的な進路の実現を目指す。③⑥⑪⑯	B	B	
	主体的な体験活動の充実	・地域連携行事、実技講習会、作品展会等を充実させ、生徒が主体的に活動しながら美術の諸能力とコミュニケーション能力の育成に努める。⑨⑪⑫⑬	A	A	
	教育活動の積極的広報	・質の高い作品制作ができるよう指導方法の工夫をするとともに、生徒が主体となって作品を広報できるようワークショップ運営や共同制作を行うなど、環境を整える。⑫⑬⑭⑮	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
メディア芸術科	教育活動の充実	・専門の授業での言語活動、表現力を高める授業形態の工夫・改善、地域交流活動等の内容充実など、授業と行事を体系化することによって、映像メディアにおける「伝える力」を伸長する。①②④⑧⑨⑪⑬⑭	B	B	・卒業制作発表会の実施方法や、地域交流を生徒の学びに繋げる手立て等を見直すことを通じて、生徒の進路実現に向けた授業改善が必要である。 ・知識・技能、思考判断力が身につく授業・指導が必要である。
	教育活動の積極的広報	・ホームページによる情報発信を行うとともに、地域主催のコンクール等に積極的に応募したり、映像メディアを媒体とした広報活動に生徒を参画させたりして、メディア芸術科の周知と地域交流を進める。⑨⑮⑯⑰	A	A	
	進路の実現	・学習に対する目的意識を持たせることによって、進路実現に必要な学力及び技能・表現力を伸ばし、進路の実現を図る。①②⑧⑨⑬⑭	A	A	
1学年	基礎学力の定着	・積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ、ICTを活用し、生徒たちが主体的に学べる授業を展開する中で、基礎学力・思考力・表現力の定着・向上に努める。①②④	A	A	・SGE研修を全体的に意識して行ったこともあり、アクティブ・ラーニングを取り入れられた。 ・保護者と連携し、多様な支援を必要とする生徒に対して寄り添いながら指導することができた。 ・生活習慣や他者理解については次年度も引き続き丁寧に指導していく必要がある。
	基本的生活習慣の確立	・保護者と連絡を密に取り、生徒の状況を把握し、極力欠席・遅刻をさせないよう指導し、特別な支援を必要とする場合は適切な対応をしていく。③⑥⑦	A	B	
		・学年間・教員間で統一した生徒指導を行い、生徒たちに丁寧に接しながら、他者を理解し、優しい心を持った生徒を育てていくように努める。⑥	B		
	考える力・伝える力の向上	・授業や総合的な探究の時間、「LIFE」、学校生活を通して、考える力、伝える力を身に付ける。①⑧⑨⑪	B	B	
2学年	基本的生活習慣の確立	・服装や時間を意識した生活を送り、笠間高校生としての誇りを持てる生徒の育成に努める。あわせて、社会の一員としての常識やマナーを身につけられるようにする。⑥	B	B	・生徒たちは、授業や様々な学校行事を通して、考える力、協働する力、誠実に取り組む力が向上したと思う。引き続き、卒業後の進路を見据えて自律した生活態度を育んでいきたい。 ・来年度の進路実現に向けて、基礎学力の向上、資格取得に力を入れていきたい。
		・保護者との連携を密にし、生徒の状況把握に努める。また、報告・連絡・相談を習慣化する指導に努める。③⑦	B		
	非認知能力の向上	・学校行事や部活動や奉仕活動等を通して、一つひとつのことに誠実に取り組み、やり抜く力や他者と協働する力を向上させる。また、自己と他者を共に尊重できる態度の育成に努める。⑨⑪⑫	A	A	
	進路に応じた基礎学力の確立	・アクティブ・ラーニングの手法やICTを利用するなど授業等を工夫し、生徒が深く理解し、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるような指導に努める。①②③④⑤	B	B	
		・各種進路行事、課外、資格取得、インターンシップなどを通して、充実感や向上心をもつことができるようにし、進路意識の育成に努める。⑥⑧⑨⑩	A		
		・卒業後の進路を見据えて、自律した生活態度を育み、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身に付けさせる。③⑥⑪⑫	B		
3学年	基本的生活習慣と社会人基礎力の育成	・学習指導や生活指導を通して、向上心や自己肯定感を高められるように努める。⑦⑧⑪⑫	A	A	・アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業展開。 ・ICTを活用した指導方法を、組織的に構築する。 ・基本的生活習慣を身につけさせるために面談や積極的な声かけをする。 ・小さな成功体験を積み重ねることで、生徒一人一人の自尊感情を高める。
		・卒業後の進路を見据えて、自律した生活態度を育み、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身に付けさせる。①③⑥⑧⑪⑫	A		
	進路に応じた学力の向上	・授業第一とし、アクティブ・ラーニングの手法やICTを活用するなど、授業の工夫をすることによって、思考力、判断力、表現力をさらに伸ばし、生徒が自ら学ぶ意欲を引き出せるように努力する。①②④⑧	B	B	
	進路指導の充実	・一般常識の学習や共通テスト対策指導の体制を整えるとともに、進路ガイダンスや課外授業、面接指導、個別面談を実施し、希望する進路の実現に向けた指導を行う。⑤⑥⑦⑧⑩	A	A	